

収蔵品展

描かれた明治維新 地租改正と八潮

巨大絵図に託された近代化への想い……

地租改正御用掛を務めた濱野弥右衛門とは？

古文書や絵図から八潮市域の明治維新を探る！

8月3日(火) ▶ 9月20日(月)

【開館時間】 9 : 0 0 - 1 7 : 0 0

【休館日】 毎週月曜日/祝日の翌日

【入館料】 無 料

八潮市立資料館

八潮市南後谷763-50 Tel048-997-6666
<http://www.city.yashio.saitama/siryoukan/index.html>



描かれた明治維新—地租改正と八潮—

私たちが現在使用している住宅地図やカーナビゲーションには区画や地番が付けられていますが、このような地図は明治初期に全国で正確に測量された地引絵図を基に作られています。では、どうして正確な地図が誕生したのでしょうか。それは明治初期に新政府が新しい税金制度を確立したことが理由に挙げられます。

江戸時代の農民には税金として年貢が課せられ、自ら作ったお米などを物納していましたが、農作物は天候に左右されやすく凶作などが発生するとお米が獲れず、年貢を納めることも大変でした。そこで、新政府は安定的な収入のため物納ではなく金納に変更します。個人の土地所有を認め、その土地の価格を定めます。そして所有者に土地の価格の3%を税金として徴収する方法に変更するのです。これを地租改正(ちそかいせい)といいます。そこで政府は明治6年(1873)7月に地租改正条例を公布し、近代財政制度の確立を進め、土地の面積や所在地を正確に測量する作業が全国で実施されます。この時に作成された地図こそ、正確な測量を基にした地図で「地租改正地引絵図」と呼ばれ、全国共通の縮尺(600分の1)としました。

ただし正確な測量を基にした地図作成には大変な労力と時間が費やされました。県では本庁租税課が主導となり地租改正掛を置き、実際の作業は各村の有力者を地租改正御用掛に任じ彼等に委託します。展示では御用掛を務めた上馬場村の濱野家に伝わる資料や3m四方という巨大地引絵図などを展示し、現在の納税制度の基盤となる地租改正や地図作成がどのように行われていたのかを紹介していきます。



地押丈量用具(測量分度器)

●東武草加駅より八潮駅北口行バスにて手代橋バス停下車、徒歩3分

●東武草加駅より徒歩20分

●T×八潮駅より柳之宮経由草加駅東口行バスにて後谷住宅前バス停下車、徒歩3分

※駐車場には限りがございますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください

八潮市立資料館
八潮市南後谷 763-50
TEL 048-997-6666

